

こんにちは 牛越です

【第180回】
猛暑を吹きとばす



大町市長
牛越 徹

堂で、先月1日から6日まで開講し、初日の開講式では神野直彦理事長のあいさつがあり、続いて、講義が始まりました。この日は、東京大学未来ビジョン研究センターの江守正多教授から「気候の危機にどう向き合うか」とのテーマで、人間の活動による温室効果ガスの増加が地球温暖化を引き起こし、気候変動が人類にもたらす危機の深刻さと、回避のために必要な社会システムの大転換について講義され、私も聴講しました。

先生は過去からの気候変動を分析し、昨年、今年とも世界中が記録的な高温となり、産業革命から1・5度以上も上昇しており、温暖化により異常気象が増え、温暖化の原因に直接責任のない地域の人々や、後の世代の人たちが深刻な影響を受ける、地域間と世代間の格差を指摘されました。間もなく暑い夏も過ぎ、実りの秋、稲刈りも一斉に進みます。コメ不足の心配を吹き飛ばすよう、大町のお米がいつそうおいしく実ることを願います。

真夏の猛暑の中、暑さを吹き飛ばす夏の催しがいくつも開かれました。若一王子神社の夏の例大祭は、7月26日の華やかな稚児行列などに続き、翌27日には古式ゆかしい装束の10騎の流鏑馬^{やぶさめ}と6台の舞台や幟^{のぼり}がにぎにぎしく巡行しました。沿道の観客が見守る中、番札改めの綱切りの儀式が行われ、大きな歓声が上がりました。古色豊かなふるさととの文化と長い歴史を体感するこの機会に、私も境内に詣で、地域の平穏と秋の豊作を祈願しました。

され、第27回ゆかたまつりや第20回商工会議所青年部祭も同時開催され、盛り上がりには花を添えました。祭りのメインイベントやまびこおどりは、昨年を上回る35連、約1450人も皆さんに参加いただき、殊に、来春再編を迎える各小学校のおどり連は、元気な踊りを披露し、表彰の栄冠に輝きました。

やまびこまつりは、先人たちが築いてきた歴史や文化に思いをはせ、まちづくりを考え、郷土の文化と伝統を創り、郷土愛を育む契機となるよう願いを込め開催されてきました。祭りを通じて醸成された市民の皆さまの連帯感が共感の輪となって広がり、地域の再生につながることを期待いたします。

また、第47回大町やまびこまつりは、先月2日、にぎやかに開催され、特設ステージと中央通りでは、市内小中学校をはじめ19の団体の金管バンドや太鼓、吹奏楽やダンスなどさまざまなパフォーマンスが繰り広げられました。さまざまな団体のブースが出店

また、今年第108回を迎えた信濃木崎夏期大学は、すず風が通う木崎湖畔の信濃公